

■ 编著：高春荣 杨凤莲

大学日语课外衔接阅读

中级篇



大学日语课外衔接阅读

中级篇

编著：高春荣 杨凤莲



天津大学出版社

TIANJIN UNIVERSITY PRESS

本书为大学日语专业学生衔接阅读教材，旨在提高学生的日语阅读能力，为后续专业课程学习打下基础。

大学日语阅读教程

图书在版编目(CIP)数据

大学日语课外衔接阅读. 中级篇/高春荣, 杨凤莲编著.
—天津: 天津大学出版社, 2009. 4
ISBN 978-7-5618-2972-1

I. 大… II. ①高… ②杨… III. ①日语—阅读教学—高等学校—自学参考资料 IV. H369.4

中国版本图书馆CIP数据核字(2009)第041098号

高春荣 杨凤莲 著

出版发行	天津大学出版社
出版人	杨欢
地址	天津市卫津路92号天津大学内(邮编:300072)
电话	发行部:022-27403647 邮购部:022-27402742
印刷	廊坊市长虹印刷有限公司
经销	全国各地新华书店
开本	185mm×260mm
印张	10.5
字数	350千
版次	2009年4月第1版
印次	2009年4月第1次
印数	1-3000
定价	45.00元(共三册)

凡购本书如有缺页、倒页、脱页等质量问题, 烦请向我社发行部门联系调换

版权所有 侵权必究

总序

众所周知，学好日语绝非易事，尤其是要想提高日语阅读水平极不容易。大多数日语专业的大学生都知道，娴熟的日语阅读能力绝非一朝一夕就能练就的。这是因为要进行有效的日语阅读理解不仅要求我们拥有很大的词汇量，还要求我们拥有坚实的语言功底、广泛的基础知识和颇强的理解能力。这些都需要学生平时大量地阅读文章来积累知识，扩大知识面。

日本语能力等级考试成绩的高低，很大程度上标志着大学生日语水平的高低。而阅读理解正是日语能力等级考试的重要组成部分，也是检验考生综合能力的一个重要方面。要想在日语能力考试中取得优异的成绩，就一定要具备优异的日语阅读水平，而要提高日语阅读水平，就必须大量阅读和进行有针对性的训练。大量阅读是一个由量变到质变的过程，必然要消耗大量的时间和精力，而且由于没有经过系统化的训练，进步也会比较缓慢。而针对性训练则不然，它是通过阅读少量但具有一定代表性的文章，使日语阅读能力得到较快速提高的一种方法，它胜在可以使学习者在一段时间内得到较大提升。如果说第一种方法是用一点点堆积成山的话，那么这套书就是先给读者搭一幢大楼的框架，然后再向里慢慢填充水泥砖块的过程。与前一种方法相比，这个方法更为方便、有效，受众面更广，也更能为广大日语学习者所接受。本套书就是秉承此种思想编写而成，全套书共分三册，共150篇具有代表性的文章，由浅入深，题材广泛，内容新颖，融知识性、趣味性、科学性于一炉，可以说，本书是一本集学术性、可读性、实用性于一体的好书，旨在帮助广大日语爱好者卓有成效地提高日语阅读水平。

由于编者水平有限，在编写过程中出现的诸多疏漏及不当之处恳请有关专家和读者批评指正。

编者

目次

1、死語の戯れ	21	24、風立ちぬ	62
2、近代家族内の子供と老人	23	25、TUGUM	64
3、おがむいのる	25	26、沼	66
4、日本の修辞学	28	27、清貧譚	68
5、枯野抄	31	28、ウホッホ探検隊	70
6、動詞人間学	33	29、どくとるマンボウ青春期	72
7、ヨーロッパからの発想	36	30、天声人語	74
8、日本人とは何か	38	31、ケジメの時代	76
9、冬の花	41	32、生きもののはなし	78
10、ホンモノのおカネの作り方	44	33、チャップリン——自分分裂の自覚	80
11、野火	47	34、望猿鏡から見た世界	82
12、社会科学の考え方	50	35、妖怪談義	84
13、パトスの知	52	36、動物愛情学	86
14、価値の社会学	55	37、読書について	88
15、「中国古典選に」について	58	38、言葉の力	90
16、大衆への反逆	61	39、時には負ける事も必要	92
17、身辺歳時記	64	40、国家語をこえて	94
18、落ち葉	67	41、室町記	96
19、桜島	70	42、ネオフィリア (1)	98
20、記号論への招待	73	43、ネオフィリア (2)	100
21、意味の果てへの旅	76	44、日本人とアイデンティティ	104
22、芭蕉物語	79	45、愛・自由・幸福	106
23、揺れる髪	82	46、日本人の生活空間	110

目次

47、ゾウ時間ネズミの時間・ゆき立風	112
48、大佛次郎随筆全集第三巻・MUBUT	116
49、季節のかたみ	118
50、幼年期 かかやく大気のなかで	122
51、リンゴのふくる・朝日新聞本心本心	124
52、鮎 (1)・陳春青の本心本心	128
53、鮎 (2)・福人専天	130
54、意味の世界	134
55、正しく考えるために (1)・村松道平	136
56、正しく考えるために (2)・小川幸雄	139
57、書くことの意味 (1)・宇野浩二の本心	142
58、書くことの意味 (2)・宇野浩二	144
答案	147

54、意味の世界	134
55、正しく考えるために (1)・村松道平	136
56、正しく考えるために (2)・小川幸雄	139
57、書くことの意味 (1)・宇野浩二の本心	142
58、書くことの意味 (2)・宇野浩二	144
答案	147

1 死語の戯れ

● 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

たしか、「いまコピーは詩になった」というふうなコピーがあった。わたしはこれを読んだとき、なるほどうまいコピーだな、と感心したおぼえがある。

ただ、その感心は、コピーの ^I 戦略的な巧みさに対してのものであつて、そのコピーがコピーと詩との現在のな関係を見事に捉えているという意味のものではなかった。つまり、そのコピーは「いまコピーは詩になった」と意図的に宣言することによって、詩がもっている——もっていると人びとに信じられている——言葉の王座の地位にのぼりつめた、と ^① ジサシしているのである。

これは、それまで表現の世界で位置をもたず、たんに商品の宣伝文句とみなされてきたコピーが、みずから詩と併称することによって、強く自己の存在を主張しようとするものだった。A、ふつうの方法なら、コピーも表現の一端を②ニナう新ジャンルですよ、とオズオズと主張させるのに、一

気に言葉の王座に駆けのぼらせたのだ。それゆえに ^B

この戦略は巧みである。しかし、巧みだからといって、事実ににおいて「コピーは詩になった」か、というと、そうではないだろう。コピーはやはり詩ではないのである。このことは、コピーという表現のジャンルは詩という表現のジャンルよりも下位にある、という謂ではない。C、「現在」を表現する言葉としては、コピーは詩を超えた、という気さえわたしにはするのだ。

これは、一方で、^D が「現在」を表現していない事実を示し、他方で、^E が言葉の風俗の最先端を切っている事実を示している。言葉の風俗の最先端を切る、とは、新造語ということをも含めて、手あかのついた言葉からアカを落とす、そのことによって言葉によってしか表現できないわたしたちの現在のなエトス(生活的な感情)に新たな光を与える、ということだ。

たとえば、糸井重里を一躍有名にしたコピーに、「不思議、大好き」というのがある。これは、「不思議」という語も、「大好き」という語も、すこしも目新しいものではない。そ

れが何故あれほど評判になったか、というところ、③ハイケイに大資本があつたから、ではない。広告や宣伝に金をかける大資本なら沢山ある。

では、何故あれほど評判になったのか。大衆受けしたのか。それは、このコピーが「不思議」のなくなった平準化社会という「現在」を④サカテにとることによって、その「現在の生活のなかに」II「不思議」の発見を行つてみせようとしているからだろう。

(1)傍線部①④のカタカナを漢字に直しなさい。

①「」 ②「」
③「」 ④「」

(2)空欄 A C にいれることばとして、最も適当なものを次から選び番号で答えなさい。

- ①それゆえに ②しかし
③それも ④それどころか
⑤いずれにせよ

A	
C	

(3)空欄

B D E

にいれることばとして、最も適

当なものを本文中から書き抜いて答えなさい。

E	B
	D

(4)傍線部I「戦略的な巧みさ」とは具体的にはどういうことをさしているか。本文中から四〇字以内で書き抜いて答えなさい。

(5)傍線部II「『不思議』の発見を行つてみせようとしている」とは「コピー」に即して言うところか。本文中から二〇字以内で書き抜いて答えなさい。

2

近代家族内の子供と老人

● 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

近代家族の形成過程は、その中にまぎこまれる当事者たちの位置のちがいに応じて、プラスにもマイナスにも評価される。若い世代は核家族化を①カンゲイするだろうし、老年層はなげかわしいとみなすことだろう。どちらが正しいかを言う基準はない。A、ここでは当時者たちの②ケンチを離れて、もつとグローバルな視点から核家族化のプロセスをながめてみたい。

近代を最もよく特徴づける制度は、合理的な経済制度である。近代の市場経済は、^I中世的な村落共同体が解体されたあとで成立する。市場経済が確立しうるためには、かつての共同体のメンバーがバラバラにアトム化し、それに応じて共同体の土台をなしていた^{III}自然(大地)もアトム化することが③フカケツである。市場経済とは、あらゆるものが商品化する制度である。人間も土地も、一切の共同体的制約から解放されねばならない。アトム的人間は十分に移動できるし、

アトム化した土地は、近代民法に助けられて、所有権上の移動が可能になる。市場経済の下では、いったんバラバラにされた人や物が、貨幣や資本の下で再び結合されなおす。こうして成立した市場経済、つまり資本主義は技術革新をくりかえし、経済成長をとげていく。十九世紀では、西欧でも日本でも貧困問題は大きかったが、二十世紀前半までには、貧困もかなりのりこえられていった。資本主義は、とどまるところをしない生産力をもつて、諸民族をまぎこみ、全地球に拡大していく。私見によれば、近代市場経済の展開と近代家族の成立とは④ムエンではない。共同体の崩壊と大家族制の崩壊とはパラレルである。核家族化とは、ファミリーの中に市場経済が侵入した現象といえるだろう。資本主義は、諸民族をつかむだけでなく、ミクロのファミリーをもつかみとる。資本主義の効果は、どんなに小さい場面をもみのがさない。家族は、ある意味では、資本主義化された人間の⑤クウキヨさをやしてくれる最後の逃げ場所でもあったのだが、その^{IV}最後の避難所も解体しようとしている。家族の歴史の流れからみれば、近代家族としての核家族は、まさに消えんとする家族の最後のあり方ではあるまいか。

①
②

③「レサヤシ」は、

④「サヤシ」は、

⑤「平の土台を公し」でつく

(2) 空欄 A にいれることばとして、最も適当なものを次

から選り番号で答えなさい。

① 例え
② しかし

③ つまり
④ そこで

⑤ 実は

(3) 傍線部「市場経済」と論旨の上ではほぼ同じ意味で使われていることを本文中の語句を書き抜いて答えなさい。

(4) 傍線部Ⅱ「中世的な村落共同体」に対応する家族制度は何か。本文中の語句を書き抜いて答えなさい。

(5) 傍線部Ⅳ「最後の避難所」は具体的には何のことか。文中

(6) 傍線部Ⅱは具体的にはどういうことか。本文中から一五字以内で書き抜いて答えなさい。

(7)資本主義の特性を端的に述べた部分を二つ本文から探し、句読点を含まずそれぞれ二〇字以内で書き抜いて答えなさい。

(8) 本文の流れによると、筆者は「家族の歴史」が今後どうなっていくと予測しているだろうか。一〇字以内で答えなさい。

3

おがむいのる

● 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私の勤め先の近くに姥が橋という所がある。現在は交通量の多い広い道路が交叉こうさしていて、殺風景きわまりない場所だが、以前は小さな川が流れていて、冒頭に書いた名の橋がかつていた。そこに小さな地藏堂があり、大小二体のお地藏さんが①アンチされている。この地藏堂にはちよつとしたいわれがあつて、それが姥が橋という地名とも関係があるのだという。昔、大雨のあと増水した小川に小さな子どもが落ちた。それを見たおばあさんが飛び込んで子どもを助けたが、自分はおぼれてしまった。それを②イタんだ土地の人たちがその場所に地藏をまつたというのである。

A、お堂のまんな中にすえられた大きな方のお地藏さんがそれなのであろう。延命地藏尊という名がつけられている。小さな方の子育て地藏尊というのはあとから誰かがかつぎこんだものか。近所の人たちの信仰を集めているらしく、通勤の途中いつ見ても香華こうけが手向けられている。お堂のそばには、せまい所なのに

ベンチも置かれていて、お年寄りたちのたまり場にもなっている。B、最近よく見かける光景は、C 若い親たちが小さな子どもを連れてお参りしていることである。子どもたちもお堂の前に下げてある大きな鈴の網をおもしろそうに引っぱったり、小さな手を合わせたりにしている。D、子どもを助手席にのせて車で通るかかったお母さんが、ハンドルを持つ手を離しておがんでいったのにはおどろいた。

おがむとかいのるといった行動は、人間の③イトナむコミュニケーション行動の一つだと思う。この場合、情報を伝達すべき相手が主観的にはともかく、客観的には認められないではないかと言われるかもしれない。しかし、おがむ、いのるという行動はなんらかのEを相手にしているのである。そして、現代の日本にはさまざまなFがいる。

「G」というレヴィストロースのことばを雑誌か新聞で読んだ④キオクがある。ただし、われわれにはレヴィストロース先生の期待に反して(?)聖なる世界に俗なる願望を持ちこむくせが多分にあることも事実だが――。

ここで問題にしたようないわばIかくれたコミュニケーションの存在はもちろん日本ばかりではない。社会言語学者

W・マッケイは、カナダのバイリンガルの人たちを⑤タイショウとする研究の中で、言語の内的機能として思考、計算などのほかにprayingそしてcursingといったおだやかならぬものまであげている。現代の言語生活は新しいメディアの急速な発達もあっているいろいろなぎやかだが、そうしたコミュニケーションばかりでなく、Iコミュニケーションの根強さを無視することができない。

(1) 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

- ①「 」 ②「 」
 ③「 」 ④「 」
 ⑤「 」

(2) 空欄 A D にいれることばとして、最も適当なものを次から選び番号で答えなさい。

- ①むしろ ②ところで
 ③この間など ④たぶん

⑤ 案外

A
B
C
D

(3) 空欄 E F には同一の語が入る。最も適当なもの

を次から選び番号で答えなさい。

- ① 社会人 ② 祈禱師
 ③ 俗なる者 ④ 超越者
 ⑤ 死者

(4) 空欄 H I にいれることばとして、最も適当なものを次から選び番号で答えなさい。

- ① 拡大した ② 顕在的な
 ③ 積極的な ④ 消極的な
 ⑤ かくれた ⑥ 縮小した

H
I

(5) 空欄 G にいれることばとして、最も適当なものを次から選び番号で答えなさい。

① 現代の日本は無神論者が多く、聖なるものと俗なるものとをはっきりと区別した日常生活を送っている。

② 現代の日本人は無神論者と言われるが、彼らの日常生活にはちゃんと聖と俗との両世界が存在しているのではないか。

③ 現代の日本人は、彼らの伝統文化の中に多くの外来文化

④現代の日本人の中には神と仏をとともにまつているも

10

(6) 傍線部Ⅰは具体的には何のことをさすか。本文中のことはを一五字以内で書き抜いて答えなさい。

[illegible]

4 日本の修辞学

● 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ひとに金を渡すとき、「金を包む」という言い方は今も残っている。そのしきたりがなお、まったくなくなっていないからである。① 商売の金銭の受取は別だが、いくらかでも社交の意味が加わると、むき出しの金を渡すのは失礼になる。

A に金を贈るときには包み金でなくてはならない。② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙 㿚 㿛 㿜 㿝 㿞 㿟 㿠 㿡 㿢 㿣 㿤 㿥 㿦 㿧 㿨 㿩 㿪 㿫 㿬 㿭 㿮

しかし、「わたくしはわたくしの家へあなたがおいでくださることに」⁽⁴⁾ トウワクを感じます」などと言ったらどうであろう。着物を着せて、「わざわざおいでいただいては」⁽⁵⁾ キョウウシユクです」とやる。論理の線はぐっとやわらかくなり、それだけあいまいさがただよう。来てほしくないのか、来てもらっては相手に悪いと思っているのか、とりようによっては

D にもなる言い方が日本語である。

はつきりした誤解の余地のないようなことばでは、相手の気持ちにつよく当たりすぎる。わざとぼかして、真意をかくし、わかりづらくする。それがていねいな言い方になる。日本の敬語は、ことばを包むヴェールのような役割を果たす。裸のことばをはばかる心が生み、発達させた体系である。

(1) 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

① 「カク」

② 「カク」

③ 「カク」

④ 「カク」

⑤ 「カク」

(2) 空欄 A C にいれる四字熟語として最も適当な

ものを次から選び番号で答えなさい。

- ① 公明正大
- ② 公序良俗
- ③ 因果応報
- ④ 文明社会
- ⑤ 異口同音
- ⑥ 質実剛健
- ⑦ 機会均等
- ⑧ 一石二鳥
- ⑨ 冠婚葬祭
- ⑩ 優柔不断

(3) 空欄 D にいれることばとして、最も適当なものを次から選び番号で答えなさい。

A				
B				
C				

- ① あいまい
- ② 悪意
- ③ どちら
- ④ くすぐり
- ⑤ 親切

(4) 傍線部 I 「裸の札」と同じ意味のことばを、これより前の文章から書き抜いて答えなさい。

(5) 傍線部 II の芭蕉のことばの意味として、最も適当なものを次の中から選び番号で答えなさい。

5

枯野抄

● 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

芭蕉はさつき、痰喘^{たんぜん}にかすれた声で、おぼつかない遺言をした後は、半ば目を見開いたまま、昏睡^{こんすい}の状態にはいつたらしい。うす痘痕^{いも}のある顔は、顴骨^{がんこつ}ばかりあらわにやせ細つて、しわに囲まれたくちびるにも、とうに血の気はなくなつてしまつた。ことにいたましいのは、その目の色で、これはぼんやりした光を浮かべながら、まるで屋根の向こうにある、際限ない寒空でも望むように、いたずらに遠い所を見やつている。「旅に病んで夢け枯野をかけめぐる」——ことによるとこの時、^Iこのとりとめのない視線のなかには、三、四日前に彼自身が、その⁽¹⁾辞世の句に詠じたとおり、茫々^{ぼうぼう}とした枯野の暮色が、一痕^{いっせん}の月の光もなく、夢のように漂つてでもいたのかもしれない。

「水を」

木節はやがてこういつて、静かに後ろにいる治郎兵衛を顧み^{いちばん}た。一椀の水と一本の羽根楊子^{ようじ}とは、既に^{II}この老僕が、用

意しておいたところである。彼はその二品を、A 主人の枕元へ押し並べると、思い出したようにまた、口を早めて、専念に称名を唱え始めた。治郎兵衛の素朴な、山家^{やまが}育ちの心には、芭蕉にせよ、誰にもせよ、ひとしく彼岸へ⁽²⁾往生するのなら、ひとくまた、弥陀^{みだ}の慈悲にすぎるべきはずだという、きたい信念が根をはつていたからであろう。

一方また木節は「水を」と言つた⁽³⁾利那の間、はたして自分^{まんかた}は医師として、万方を尽くしたろうかという、いつもの疑惑に遭遇したが、すぐにまた自ら励ますような心もちになつて、隣にいた其角の方をふりむきながら、無言のまま、B 合図をした。芭蕉の床を囲んでいた一同の心に、いよいよという緊張した感じがとつさに閃^{ひらめ}いたのはこの時である。が、その緊張した感じと前後して、一種の⁽⁴⁾弛緩した感じが——いわば、^{III}来るべきものがついに来たという、安心に似た心持ちが、通りすぎたこともまた争われない。ただ、この安心に似た心持ちは、誰もその意識の存在を肯定しようとしなかったほど、微妙な性質のものであったからか、現にここにいる一同の中では、最も現実的な其角でさえ、折から顔を見合わせた木節と、^{IV}際どく相手の目のうちに、同じ心持ちを読み合つた時は、さすがにぎよつとせずにはいらなかったので